



大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和8(2026)年
1月号
通巻665号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 令和8年1月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)45-1192
★印刷 大倭印刷
★定価 1部 300円
★年間購読料 3,500円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



法主 御帰幽30年(文・8頁)

令和7年(2025)11月22日 ご自宅にて

過ぎし日をふり返って——大倭の今昔を語る(上)

教長 矢追家麻呂(満87歳)

新年にあたって矢追家麻呂教長さんのこれまでの人生をふり返ってのインタビューを2回にわたって紹介します。教長さんの明るいさくばらんな語り口をなるべく損なわないように心がけて編集させていただきました。(編集部)

東京から大倭へ戻って来た頃

——今日はよろしくお願ひします。最初は昔の話を少し確かめていこうかなと思っています。教長さんが生まれたのは、法主さんご夫妻が神宮の所に住まわれていた時ですよ。

教長 そう、神宮やったと思う。

——東京に行っていた時のことってどれくらい記憶がありますか。

教長 八紘会というところで中国人(※蒙古系の留学生)とかいっぱい来てたわ。

——中国人達はそこで泊まっていたんですよね。留学生みたいな人達ですか。

教長 そうそう。法主さんがなんや仰山(きょうさん)中国人連れて来て面倒みてたで。住んでいたところは淀橋区(※現在の新宿区)百人町の何丁目かやった。入口に石の柱2本建つとったな。なんか入口のところに八紘会の看板上がつとった。まだ学校に行っていない時やからね。百人町というのは、

——いやは今もあるんです。僕(※岸田哲)が東京に行った時に、法主さん達が住んでいた「金の玉御殿」は百人町のど

の辺にあったのかなと思って歩いたことがありません。金の玉御殿の周辺で遊んだのですか。

教長 いや建物の中が結構広かったからな、外へは遊びに行かへん。まあ遊ぶというたつてそんなに遊ぶ相手も大しておらへんし。



東京で法主と3人の子ども達

—— お子さんは輪儒美(※五十嵐輪儒美、旧姓矢追)さんと美壽紀(故矢追美壽紀)さんと教長さんだけです。

教長 そうそう。

—— 東京時代のなにか思い出というか覚えてい

教長 その中国人が仰山来てたからな、一緒に遊んでくれた。なんやかんや言うても、俺が法主さんの息子やというの分かつとるからな。みんな大事にしてくれよつたで。

—— 彼らは日本語が出来たんですね。

教長 日本語出来たんかな。俺もまだ子供やから、今みたいにベラベラしゃべられへんしな。

—— 昭和19年に奈良に戻って来たんですね。

教長 庄山に帰って来て、それで法主さんが菅谷

(※現在の大倭紫陽花邑) へ行つたやろ。その時

「お前どないすんねん」言うから、「法主さんが行くんやったら俺も行く」言うて、それでこつちへついて来たんや。

—— でも生活がガラツと変わったでしよ。

教長 そうそう。茅葺きの2階建ての家やろ。下

(※1階)は百姓の道具とかいっぱい置いてあつて、2階で寝ててんけど、ちよつと頭上げたら天井で頭をカーンと打つたりな(笑)。まあほんまにえらい生活やつた。両サイドは簷やろ。風吹いたら簷が動いて寒いねん。

—— つらいという感じはなかったんですね。

教長 つらいとかそういうのはあんまりなかったな。法主さんがここに入って宗教活動するとか言うてはつたからな。せやからまあ別にそんなつらいとか思わへん。それに街頭布教へ行つてはつたやろ。その時に法主さんが天王寺とか上六(※上本町六丁目)とか、あつちこつちでなんか訳の分からんやつ連れて帰って来て、一時26、7人おつたん違うかな。入れ墨入れたやつとか、いっぱいおつたわ。その人達が俺を「若君、若君」言うてな、大事にしてくれよつてんや。俺こんな性格やからな。アホなことばっかり言うやろ。食うもんもなかったから、烟でスイカ作つてたのを取つて来てみんなに食わしたつてん。ほんで法主さんにえらい怒られたわ(笑)。

田舎の暮らし

—— 庄山の生活から急に貧しい生活に変わりましたよね。

教長 別にしゃあないなと思うてるからな。まあ麦飯ばかり食うとつたわな。麦と芋ばかりで、白ご飯なんか食べたことないもん。白ご飯食べた時は、こんな美味いご飯あんねんと思つたな。

—— 抵抗はなかったんですね。

教長 なかったな。ほんでな、悪いことばっかりするさかいに、その鏡池に2回はめられてんね

ん(※放り込まれた)。瑞光院の下にも池あるやろ、あそこにも1回はめられたしな。

—— それは法主さんがはめたんですね。

教長 法主さんがはめてんや、抱いて。池にはまった下は泥やろ。ドロドロやねん。この辺くらい(※腰)まで体が入んねや。後で法主さんに、「あんなどこへはめて俺が死んだらどないするねん」言うたつたら、「いや俺はそんなもん分かつた。絶対死ぬことないねん」って法主さん言うてはつたわ。

—— どんなことをしてはめられたんですね。

教長 食べる物なかったやろ。他所の畑のスイカを取つてきたり果物取つてきたり。登美学園(※現奈良県立藤の木学園)あるやろ。あそこに柿が仰山なつとつて、みんなに食べよ言うて、それを取つてんや。それを法主さんに見つかつてえらい怒られてな。それで池にはめられてん(笑)。

—— そういう時つてピンタされるんですね。

教長 もう往復ビンタや。法主さん手が大きいやろ。どつかれたら顔の耳の方まで来るんや。そんな時はここ(※頬)に型ついとんねん。

—— 厳しかったんですね。

教長 厳しかったわ。ほんでな、なんか知らんけど他の者には厳しくないねん、俺だけに厳しいねん。

—— 法主さんが連れてきた人の中にも悪さする人いたでしよ。

教長 そんなやつばかりやもん。天王寺とか上六とか街頭布教の時に話聞きに来てやな、飯食われへん言うたら、うちへ来い言うて連れて帰つて来てはつたわ。その人らは、仕事いっこもしやらへんねん。それで飯だけ食いよんねん。まあうち畑あつたから。今の東方の碑のそこはみんな畑やつてん。米とか麦とかいっぱい作つとつた。そんなん作つたやつを、生駒駅で売つててん。買

うてくれはる人もいてはったし。

—— 法主さんは大変だったでしょ。

教長 今の拜殿が建つてるところあるやろ、あそここ始め畑やつてん。そこに木の丸太で高い台があつてん。それで誰かが悪いことしよるやろ。そして俺がそこへ座らせんねん。布団も座布団も敷かんとやで。木の敷いてるところへ座らせて痛いかな。足崩すやろ、すると怒られてな。なんで俺ばかりやねんと思うで。

—— 代表で怒られた訳ですね。

教長 そうそう。だから誰かが悪いことしたら、怒られるのはいつも俺やねん。

—— 教長さんがみんなのことを思いやっていたわけですね。

教長 それは大事にしたよ。芋食べよとか柿食べよとか。それで俺は法主さんによく怒られたわ。俺は食わんでもみんなそいつらにやつとったからな。あの頃俺を「ボス」とか「若君」とか言うようになったかな。教長さんとか言うとはんかった。



—— 「教長さん」という名前は一応あったんですね。

教長 あつてんけどな。いつ頃からこないなつてんやろうな。

—— 「教長さん」というのは、僕（※青山法義）の子どもの時に言うた記憶があるから、結婚され

たぐらいい違いますか。その頃に「教長」さん、「教母」さんて言うようになったのと違うかな。

大倭を出て生活

教長 まあとにかく悪いことばかりしてたわ。

いつも俺を怒ってばかりしよるからな、家を出て行つたんや。食堂をやつてはるところがあつて、その2階に下宿させてもらつて。そこで世話になつて家賃払つて飯食わしてろうてやな。それは大阪の此花区やつたかな。法主さんが俺ばかり怒りよるから腹立つて、「もう出て行つたるわ」言うて出て行つたつてん。

—— それが動機だったんですね。

教長 大型免許を持つてたからな。生コンの運転手して結構給料もよかつたしな。心斎橋で夜間の工事しとつて、そこへ生コン持つて行かなあかんかつてんや。あれ回しとかなあかんねんな。それをやかましいからエンジンも切つてもうたつてん。そしたらセメントが固くなつてもうてな。えらい怒られたわ。怒られたけどな、大事にしてくれよつたで。ほんまに大事にしてくれはつたわ。

—— やつぱり人徳ですね。

教長 悪いことばっかりしてなんもせえへんけどやな。

—— 僕は「教長さん」言うて、みんなに大切にされるから、やつぱり外の生活を味わつてみたいと邑を出たのかなと思つて。

教長 それもあんねんで。法主さんはなんでも俺を怒りよるからな。もうこんなところにおつてもしやあないわとは思つてたけどな、今言わはつたみたいなことあんねん。出て行つても外で飯食えるやろと思つてやな。その時大型免許持つとつたからな。

—— それ強いですね。

教長 その当時は大型免許というのを持っている人はあんまりおらへんしな。

—— その大型免許はここ（※大倭）で取つたんですね。

教長 そうそう。

—— でも外の生活は全く違つたでしょう。

教長 外の生活は楽や。自分で好きなように出来るねんもん。ところがな、そこのお店は創価学会やつてん。だから毎日お参りせんあかんね。晩に南無妙法蓮華経を何回も言えとかよう言いよんねん。それせんかつたらそこに生まれへんからな。1年以上はおつたと思うわ。せやけどな、どこに行つても大事にしてくれたわ。それだけはおありがたいなと思うてんねん。その食堂のおばちゃんも俺が帰つてきたらな、お汁でも暖かく沸かしてくれたりな。そりやもう大事にしてもらうたで。ありがたかつたわ。

—— 世知辛い世の中ですもんね。珍しいですね。2階に住んでたんですね。

教長 そう。食堂の2階に住んでたら飯の食いはぐれないわと思つてな。

—— でも大倭を出る時は、法主さんに「応断つて行つたんですね」。

教長 いや、黙つて行つたんや。それで「法主さん俺がおらへんから淋しかったやろ」と言うたらな、「いやまた帰つて来るやろ思うてたから」つて。ちよつと外で勉強した方がええやろと、だけ言うて。だから法主さん探しにも来よらへんかった。ほつたらかしや。ほんでなんで帰つて来たんだな。

—— 法主さんの病気とかは関係ないんですか。

教長 あつ、それや。それで帰つて来てん、病気で倒れはつたから言うてな。

大倭に戻り福祉施設で働く

—— 帰って来てすぐに施設の方に行ったんですか。

教長 せやな。帰って来た時法主さんに、「お前そんなことばかりしてるから、施設で働いて気の毒な人の姿を見とけ」と言われてな。それで最初菅原園へ行かされてん。なんて言うたかて排泄がかなわなかったわ。まあせやけどな、俺は排泄を自分で出来るからええけど、出来へん人のことやかな。偉そうなこと言うたらあかんと思つてやな。

—— よく我慢出来ましたね。

教長 我慢してた。菅原園の子たちみんな車椅子やろ。今やったら男女別にしとるけど、その頃は男も女もなしに両方やってたやんか。若い子やったらやつぱり排泄はいっぱいあるやん。そんなん替えるんとか、トイレに連れて行つてパンツ下ろして便器に座らしてな。ほつといたらみんな落ちよるから臭いのに見とかなあかんねん。あれは大変やったな。

—— あの時は指導員かなにかだったんですか。

教長 始めは介護職員で、しばらくしてから指導員になったんかな。

—— 急に外から戻って来て、施設の事は大変だろうなと想像しましたけど。

教長 いや大変やで。匂いはかなわん。トイレのドアは締め切りとは違うやろ。カーテンだけやんか。そしたら廊下でもいっぱい匂いするしな、それは大変やったわ。また自慢みたいになるけどな、俺は利用者からほんま慕われてん。矢追先生、矢追先生とか言つてな。その時は美壽紀(※故矢追美壽紀)が施設長しとつてん。

—— あ、そうか。今井(※故今井貢)さんが副

施設長だったんですか。

教長 その後に今井さんが施設長になりはってん。

—— 他の職員とは結構仲良かったんですか。

教長 まあ職員もそれはもうみんな大事にしてくれよつたで。

—— 松浦君(※松浦武夫)もいたんですね。

教長 松浦もおつた。せやけどあいつは偉かったわ。あいつの姿を見て俺も大分人間変わったな。嫌な顔一つせんと利用者とほんまに付きおうてたもん。俺も大分成長さしてもうた部分もある。やつぱりこういうふうにせなあかんねんと思うて。

—— 松浦君は今でも菅原園から自立して出て行った人の世話なんかしていますね。

教長 まだやつとんの。あいつ摂津とかにいるんと違うの。

—— 今は枚方の施設で働いてるんですけれどもね。その傍らそういう人たちのことを気にかけて

母・矢追美壽紀を見送って



令和8年の幕が開けました。平素から社会福祉法人大倭安宿苑(あすかやん)に対し温かいご支援、ご協力をいただき心より感謝申し上げます。

令和7年11月26日に母親であり当法人の理事長であった矢追美壽紀が霊界へと旅立ちました。

私事になりますが少しだけそのことについて触れさせていたきたいと思います。本当に急な旅立ちでした。時間が経ち気持ちが少し落ち着いてきたのでいろいろ考えてみると、不思議な感覚に

います。

教長 自分でまた別に行つてんの。あいつは徹底しとつたな、ほんまに偉いやっちゃわ。嫌な顔一つしやらへんもん。今どないしてるか1回会いたいぐらいやな。あいつには頭下がるわ。もうあいつもええ年やろ。

—— そうですね、もう70歳近くになります。今も働いています。

教長 家庭持つとんの。

—— 奥さん亡くなったんです。だから今は独り身ですわ。でも人に一生懸命尽くすということを一貫してやつてます。

教長 徹底しとるで、あいつは。あんなやつはやつぱりなんかしてあげんとあかん。

—— まあ余りにも徹底してるんで、逆に周りの人から煙たがられたりする面もありますけど。

教長 それもあるけどな、あいつもほんまによくやつてくれよつたで。せやけどあんなやつも珍しいな。(続く) (敬称略)

矢追 明昌 はるまさ

陥りました。「幽霊の正体見たり…」という言い回しを字面の通り読んで、そう見えると思うもの(こと)はそう見える、中にはそう思わざるを得ないこともあるのだらうという感覚です。

まず令和7年は巳年で私の還暦の年でした。私の生まれた干支の年に母親は霊界へと還つていったということになります。そしてその帰幽の翌日11月27日に、葬儀社と親族により旅立ちの衣装に着替えさせていただきました。その衣装は着物で、ちょうど30年前に当時の矢追日聖理事長の最後の建替え事業であった長曽根寮等建替え工事竣工式の日矢追美壽紀常務理事として着ていた着物で

した。その竣工式の日が、元号こそ違えど同じ年月日の平成7年11月27日だったのです。

元号が変わっただけで同じ数字の並びの日に、日聖法主さんと並んで歩いていった時の着物に着かえられたこと、偶然といえれば偶然、たまたまといえればたまたまことになりましたが、私としては見えない宿命の流れがすーっと流れているなかでの決まっていた節目だったのかなと考えてしまいます。

大倭安宿苑の動きとしましては、役員の皆様のご協力、そして事務局長を中心としての確かな動きによりましてその11月27日に急遽役員会が開催でき、後任理事長として私を選定していただきましたので謹んで受けさせていただきます。

大倭紫陽花邑で生まれ育った私は、子供のころから須加宮寮や菅原園といった施設に慣れ親しんでいて、ある意味遊び場でもありました。今のこの時代ではなかなか考えにくいことですが、扉や廊下の窓がオープンで学校から帰ってきたら誰に声をかけるでもなく施設のご利用者や職員さんと卓球をしたり本を読ませてもらったりしていた記憶があります。

子供のころは家の延長線上でしたが高校生になったころくらいから、夏休みや冬休みに長曽根寮や菅原園でボランティア的な立場で関わらせてもらっていたので何となく仕事場という思いが生まれてきました。

大学受験の際も特に誰に言われたというわけではないのですが、社会福祉関係の学校を受験し何とか合格することができました。当時の大倭殖産社長の柴地さんから合格祝いとお手紙をいただき、それは今でもまだ手元に残してあります。その手紙のなかに、「法主さんはあれこれ人に期待を述べる人ではありませんが、その胸の内が判る筈です」というようなことが書いてありました。

大学時代は運動系クラブで汗を流しすぎていたため四苦八苦しながらの卒業で、直後大阪市西成区にある社会福祉法人大阪自彊館の故吉村穀生先生に温かく迎えていただき、紫陽花邑以外での福祉の現場で働かせていただき貴重な経験をしました。

平成2年に社会福祉法人大倭安宿苑職員として採用され、何度も理事長としての日聖法主さんとお話する機会がありました。結局私の未来について示唆や胸の内がわかるような言葉などはなかったように思います。今となつては、なぜもつと踏み込んだ内容の質問や教えを乞うことなどをしなかったのだろうか。後悔はありますが、少しの時間でも一緒に仕事をさせてもらったことを糧にしていくなかと思っています。

少し前に、当法人が福祉制度を追いかけている、というようなことを書いたことがありました。措置制度から契約制度に大きく変化したことに対し、どのように対応していくのかということ。例えば、以前には特養老人ホームに入るには3年くらい待機しなければならぬとか、障害を持っていると施設に入るのが一番というような時代ではなくなったという意味です。

いわゆる福祉業界へいろいろな業種からの参入も増え続けており昔に比べて選択肢としての施設利用という幅がかなり広くなりました。利用される方にとっては素晴らしいことなのですが、当法人として単に老舗でずっと施設を経営していますというだけでは利用していただく選択肢に入りにくくなつてきています。この時代だからこそ大倭安宿苑の強みはどこなのか、法人名として名前をお借りしている光明皇后さまのお気持ちほどこそ向いているのか、前理事長が帰幽された今、改めてそれらのことを考え、そして役員一同が一生懸命行動することにより、理念である「あなたも

私も仕合わせに」の実現に近づいていけると思います。温かい目で見守っていただきながら、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、前理事長が帰幽される数日前にその時の自分の気持ちを書いたと思われる文章中の言葉をひとことだけ抜き出して紹介します。本当は自分自身の口から伝えたかったと思いますが、紙面を通じてでもきつと伝わることを思います。

「職員のみなさんありがとう。感謝します。みんな仲良くネ」 合掌

記事の予告

文化講演会報告と押し絵教室取材記事

▼紙面の都合で昨年の11月9日に開催した大倭会文化講演会の報告が遅れています。当日は沖縄大学教授で動植物についてのユニークな著作を多数出されている盛口満氏が、「沖縄から自然と人間のあり方を考える」と題して実物の動物の骨なども持参して興味深いお話を展開してくれました。

▼1月9日に大倭会館で押し絵教室の取材を本紙の編集部員の中村千久佐と岸田哲で行い、高濱道子先生の熱心な説明に耳を傾けました。

講演会の報告記事も押し絵教室の取材記事も近いうちに本紙に載せる予定ですので、楽しみにお待ちいただければと思います。(編集部)

法主・言の葉



相反する二つのものが結局は一体なのだ。

この一体は常に相反する性格があるために常に対立の形を示しているが、実は一体なる故に調和がある。

じんづうりきによぜ

「神通力如是」の真意をさぐる

第四十回

大倭教の源流にさかのぼって

今回の原文は、前回の奇稻田姫命の神話りの続きですが、長髓彦(長曾根彦) 命と矢追家一代の矢追道麻呂について大切な発言をしています。

また、大倭神宮にある「恩地鶏の森」の碑の裏側の説明文も写真とともに紹介しておきます。

原文

(昭和16年11月28日の続き)

長髓彦ハ賊ニ非ズ忠臣ナリ。吾主饒速日命ノ為、命モ心モ捧ゲシガ、天ヨリ下リ玉ヒシ神武天皇コノ大倭ノ地ニ入り玉ヒシ時、來テ我が主君ヲ守リマシテテムカヘ致セシナリ。長髓彦ハ二君ニ仕ヘズ、吾主饒速日命ヲ一ツノ君トシ外敵ハ賊ト思ヒケル。吾レ其レヲ見ルニツケ忍ビズシテ背君建速素戔嗚尊トハカラヒケルナリ。背ノ君ハ鶏トナリテ神武ノ弭ニ止リ長髓彦ニ申シ玉フ、「汝手ムカイ致スナ、吾レ汝ノ心ヨク知ルゾヨ、ココハ心ヲ入レ替ヘテヘリ降り國土返上セラレヨ」。

長髓彦コレヲ聞キテ戦ヤメタリシガ其心マデ歸順セズ主君饒速日命ニ申セシガ御イレナサレズ、ヨリテ意ヲ決シ自カラ果テタリ。不憫ナル者ゾ。長髓彦其ノ涙未

ダ乾カズ、後ノ世ニ聖徳太子トシテ世ニ出デタリ。時ニ矢追家一代道麻呂、聖徳太子ノ舍人トシテ侍り候、物部氏追討ノ折聖徳太子ニ御供シコノ大倭鶏杜ヘト参リケル。其時我ニ向ヒテ矢ヲ八本出セリ。我レ其レヲ見テ中ヨリ鎗矢一本ヲ執リ「コレニテ誅セヨ物部ヲ」ト宜ヒテ候。

道麻呂畏ミテ其レヲ持チ自カラツガエテ物部守屋ノ胸板見事ニ打ツラヌキタリ。其恩賞ニヨリ河内國ト箭負(追)ノ姓ヲ賜リ其矢ヲ背負ヒテ奈良ニ行キ春日ノ宮ニト仕ヘケル」。

日聖云ふ、本日大阪朝日新聞夕刊に報ず。

豊橋ニ大旋風、五十名死傷、二百戸倒半壊、初冬稀な豪雨異変、詳細は新聞記事参照あれ。あ、之れ龍田明神の御神威ならむ。皇國萬歳。

《解説》長曾根彦と矢追道麻呂について

今回の原文の奇稻田姫命の神話りの中で長髓彦(長曾根彦) について語っているが、第37回の『神通力如是』の真意をさぐる(令和7年7月号)の中で「長曾根彦についての法主の思い」と題してくわしくふれているので参考にしていただ

きたい。また、その解説の中で『先代旧事本紀』から引用して、長髓彦が「二君に仕えず」ということの意味が記されているが、今回の神話りの中で同様のことが語られているのは、こうした神話の反映といってもいいかも知れない。



金鶏はササノオ尊の変化であり、この地(大倭神宮)は金鶏発祥の地であること等が記されている。

法主は平成6年8月に発行された『大倭神宮伝承の紀』の中で長曾根彦と狭野命(神武天皇)の戦いと和議についてふれているので、この際紹介しておきたい。

《金鶏発祥の霊地

・鳥見山中霊時聖蹟

平和な「ヤマト」の国に憧れて、西筑紫の屋根と伝えられた九州の臍、広大な阿蘇の知保郷で生

あじさい日誌

12月12日 佐渡の平田さん一家7人が来邑され、14日まで滞在されました。
12月14日 午前9時から紫陽花邑の大掃除が行われ邑内がきれいになりました。

午後から交流の家でFIWCの定例委員会が行われました。
12月15日 午後2時から大倭神宮の月次祭が行われました。
12月23日 大倭元旦（大倭83年）。法主日聖師（生誕の日）。

祭典後、大倭会館において普段交流が少ない方達の交流会が行われました。

12月24日 大倭とも昔から縁のある、宮城県の佐藤光夫、円夫妻が和歌山で行われたリトリートの後、オプショナルツアーとして16名の方々と共に大倭を訪れました。旧知の林さんが案内役を務められました。

12月26日 午後5時から本紙『おおやまと』の編集会議が教務本庁で行われました。

12月28日 午前9時から大倭神宮の大掃除が行われました。神宮で集められた枯れ葉や古い竹などは1月11日の「大とんど」で火にあげるため大倭紫陽花邑に運ばれました。

12月28日～30日 交流の家でのFIWCの年末キャンプで関東や九州の学生、関西のOB・O

Gが集まり、活動報告・情報交換・交流などを行いました。約25名の参加がありました。

12月31日 午後1時から男性達による拝殿・神宮の1月1日のお供えと飾りの用意が行われました。

午後11時5分から大倭大本宮拝殿の太鼓でひと月を1回として祓い清めの太鼓を12回打ちました。

1月1日 午後2時から大倭神宮の年始祭が行われました。

1月5日 午前11時から大本宮拝殿において紫陽花邑の事業関係者の始めの会が開かれました。

1月6日 午後2時から大倭神宮の月次祭が行われました。
大倭安宿苑では
1月4日 辞令交付式が行われました。

辞令を受けた全職員が特定技能外国人というのは初めてのことでした。

（菅原園）

12月24日 年忘れ会で職員によるアトラクションでバルーンアートや海外から来られた職員によるダンスと音楽療法の先生による集団セッションを行い、楽しい雰囲気一年を締め

くくる事ができました。

1月2日 書初めを行いました。自身で書ける利用者は直筆で書き、書けない利用者には文字を聞き職員が代筆しました。

職員も書初めを行い、内容を見て話をしたり笑ったりと楽しい時間を過ごしました。

（須加宮寮）

12月11日 昼食時に忘年会を行いました。座席にプレゼントとクリスマスカードを置き、利用者がプレゼントを開けて喜ばれていました。午後からは、カラオケを行い楽しまれておられました。

12月23日 今年最後の音楽療法

法主帰幽祭のご案内

日時 令和8年2月6日(月曜日)

●午後1時45分より法主様奥津城においてご挨拶をいたします。

●午後2時より大本宮拝殿においてお参り後法話などの映像記録を見ていただき、その後教長さんのお言葉を頂きます。

宗教法人 大倭教

が行われました。クリスマス・お正月前ということで、クリスマス・お正月の曲を中心に行われ、皆さんは先生と一緒に楽しく歌っていました。

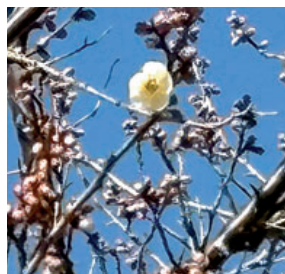
（長曾根寮）

12月24日（特養）各フロアでサントの恰好をした職員がケーキを配り、クリスマスカードのプレゼントを渡して喜んでもらいました。

12月25日（デイ）クリスマスからお正月まで飾れる作品づくりを楽しんでもらいました。

（茂毛路園）

12月25日 あじさいホールでクリスマス会を開催しました。内容はコロナ禍以前に開催していた「ピアノでうたおう」をクリスマスバージョンで行いました。クリスマスにちなんだ曲や歌謡曲をピアノの伴奏に合わせて皆さんに歌ってもらいました。そして、終盤にはサンタクロースがサプライズ登場し、ご入居者にクリスマスプレゼントを渡しクリスマスの雰囲気を楽しんでもらいました。



1月12日大倭会館前の梅開花！

あんない

*玉緒祭（大本宮）

2月3日（火） 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

玉緒祭は宇宙根本神霊と人間の本霊との結びを感謝するお祭り。玉は命を、緒はひもを言う。

*月次祭（大倭神宮）

2月6日（金） 午後2時より大倭神宮にて。

*大倭会親会

2月7日（土） 午後2時より大倭拝殿にて。

帰幽祭準備のためいつもの曜日と違うのでご注意ください。

*法主帰幽祭

2月9日（月） 上欄参照。

*月次祭（大倭神宮）

2月15日（日） 午後2時より大倭神宮にて。

*申孝祭と月次祭（大本宮）

2月23日（祝・月） 午後1時20分より大倭神宮にて申孝祭が、午後2時より大倭大本宮拝殿にて月次祭が行われます。

申孝祭は、神武天皇が行った祭政一致の故事、鳥見山中の靈時を記念するお祭りです。

表紙写真について

来月2月9日に帰幽祭を迎えますが、本号が法主御帰幽30年に当たります。拝殿での法話中の法主様のお姿がなつかしく思われます。

（P）